

掛川市周辺の新第三系～産出化石の意味～見学報告：
西部支部巡検会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 誠二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024728

掛川市周辺の新第三系～産出化石の意味～見学報告 －西部支部巡検会－

伊 藤 誠 二

1. はじめに

掛川周辺には、新第三系の地層が連続的に広範囲に渡って分布している。とともに、この地域の新第三系から産出する化石は全国的にもよく知られている。多くの会員が既に何度かこの地域を訪れ研究していると思う。しかし、近年は宅地開発が進み、露頭観察に適した場所がなく、ここ数年、本地学会もこの地域の巡検を実施していない。今回は、動物化石と植物化石それぞれに詳しい先生の案内のもと、現地で産出化石の意味を学習しようとして巡検が開催されることとなった。

2. 長谷の化石床

11月7日(日)この日は天気も良く巡検日和となった。朝10時に掛川市役所北側の駐車場に17名(袋井市市議会議員, 企画政策課職員, 高校生を含む)の参加者が集まった。それぞれ4台の車に分乗し、掛川市長谷の逆川の河床に向かった。近くの老人ホーム脇に車を止め、土手の上から少しばかりの藪こぎをして、逆川の河床に降りた。降り立ったところの地層面には、数多くの貝化石の破片が見られた。参加者達は、地質の観察をした後、思い思いに貝化石の採集



図1. 逆川河床での地質調査・化石採集。

を行った(図1)。貝化石に混じって、単体サンゴの化石も見られ、今回は発見することが出来なかったがサメの歯の化石も産出するそうだ。比較的保存状態のよい貝化石が見られ、延原尊美(静岡大・教育)先生に同定してもらったところ、ミクリガイ *Siphonalia cassidariaeformis* やコロモガイ *Sydaphera spengleriana* などの巻貝やベンケイガイ *Glycymeris sp.* などの二枚貝の化石を採集することができた。この地層中の貝化石を調べると、浅い海に棲息する貝とともに比較的深い海に棲息する貝が混在しており、また貝化石とともに炭化した植物の破片が多く見られる。その植物片に混ざって、現在では絶滅した「オオバタグルミ」*Juglans megacinerica* の球果化石が見られた。私も、一つ採集することが出来た。北村孔志(静岡大・工)先生の説明によると、オオバタグルミは110万年前頃に絶滅したクルミ科の植物化石で、しわが深く、そのためリスやネズミなどには食べにくく食痕が見

られないのが特徴である。二人の先生方の説明を聞き、この地層が形成されたころの堆積環境が僅かながら見えてきた。

3. 大日砂層

昼食を兼ねて、本郷近くの大日砂層が見られる場所に移動した。大日砂層を代表する典型的な露頭が見られたが、残念なことに貝化石が密集する層は草に覆われ見るができなかった。しかし、貝化石を多量に含む転石がいくつか見られ、この辺りには今から300～200万年前の浅海で堆積した砂層が広く分布し、貝化石の密集した層が分布していることを読み取ることができた。

4. 宇刈（大日）ほたるの里公園

昼食を終えた後、袋井市大日にある「ほたるの里公園」の建設現場に向かった。公園建設に伴う造成によって、多少吹き付けは見られものの大露頭を見ることができた。参加者は、夏目建設の社長の話を聞いた後、思い思いに露頭の観察を行った。露頭を見ると、貝殻は既に解けてしまっているが、多くの二枚貝の印象化石（*Anadara* ?）を見ることができた。また、多くの炭化した植物片に混じり、ハンカチノキ *Davidia involucrata* の実化石も見られた。

多くの断層、とくに逆断層が見られ、構造地質学的にも興味をもてる露頭である。参加者達は、断層を肴にしてそれぞれが思い思いの意見を述べ合っていた。しかし、この大露頭も公園建設とともに姿を消してしまう可能性もあり残念である。今回、特別に参加した袋井市の市議会議員や企画政策課の職員を通じて、公園整備の中にこの地域の化石とともに、この露頭のもつ意味を伝え保存できたらと感じた（図2）。



図2. 「ほたるの里」の大露頭前にて。

今回の見学を実施するにあたり、夏目建設社長には、休日にもかかわらず「ほたるの里」の工事現場を案内していただき大変お世話になった。また、延原尊美（静岡大・教育）先生、北村孔志（静岡大・工）先生には、掛川層群およびそこから産出する貝化石、植物化石について大変丁寧な説明をしていただき、大変お世話になった。

末筆ながら、厚くお礼申し上げます。